

Part2【発信】

それぞれが学んだこと感じたことを、
報告会やメッセージボードの展示等を通
して【発信】しました。



青少年ステーション CAPS 報告会

日時: 令和元年11月22日(金)

午後4時30分~6時

会場: 青少年ステーション CAPS

クラフトルーム

青少年ステーションCAPSの利用者へ
向けて報告会を実施しました。

最後に意見交換をしました。



市特別職への報告会

日時:令和元年12月8日(日)
午前10時~11時30分
会場:教育会館 研修室301

市特別職や関係者へ広島平和派遣を通して学んだことを報告しました。



報告会の内容

報告会では、以下の内容を発表しました。

はじめに

2019年は、終戦から数えて74年目に当たります。時間が経つと共に、戦争を経験された方もお年を召され、お話を聞ける機会が少なくなっていくと思います。私達が大人になるころには、もっと難しくなるのかもしれない。

自分自身が経験したことのない出来事の、ありのままの様子を実際に聞くことができるというのは、とても貴重なものであると考えています。

今の平和な暮らしの前には、私達が想像もできないことがあったのだと、もうあってはならないことだと思い、それを誰かに伝えたいという気持ちを持って広島へ行きました。そして、これから3日間の貴重な体験を報告します。どうぞお聴きください。

(橘 周子)

任命式・事前学習の報告

初めての顔合わせの時、私はとても緊張していました。どんな人がいるのか、どんな活動をしていくのか、すべてが未知だったからです。

第1回事前学習会では、他メンバーと交流をとる機会がほとんどなく「このメンバーで大丈夫かな」と思う場面も多々ありました。しかし、第2回事前学習会ではメンバーとコミュニケーションをとる機会を与えていただきました。学習会では、丸を書いて様々な表情を書くグループワークを行ったり、派遣前の想いを書いたりしました。1回目とは雰囲気が違い、和気あいあいとしていました。

私はこの第2回事前学習会はかなり価値のあるものだと思います。連絡先を交換するなど、学年を超えた友情が芽生えたと個人的に感じました。広島に行くことがさらに楽しみになったきっかけにもなりました。任命式から2回にわたるスパンは長かったですが、その時間多くのことを考えさせられ、少し成長できた部分もあったと思います。その3日間はとても私にとって有意義な時間でした。

(樋口 杏)

広島平和派遣【1日目】

令和元年7月29日(月)

広島平和記念公園内を見て回りました。私たちが歩いた地面の下には、今も当時の瓦礫や遺骨が眠っているそうです。

最初に原爆ドームを見ました。実際に見たのは初めてでした。昔は取り残しに反対した人がいたそうです。けれど、今では私たちの様に戦争を知らない世代にとって、戦争の悲惨さを実感出来る場所です。

次に、国境のない鐘を見ました。世界地図が書かれていますが、国境はありません。

公園内の大きな慰霊碑は戦時中に日本で亡くなった韓国の方のお墓でした。母国にも帰れない状況下で、骨だけが残ったのです。後に、日本人がその慰霊碑を造ったそうです。慰霊碑は、大きな亀の上に乗っており、その亀は、母国である韓国の方を向いています。

原爆死没者慰霊碑の中央の石室には、毎年8月6日に被爆して亡くなられた方の名前を記帳した原爆死没者名簿を納めています。

原爆の子の像の周りには、全国から寄せられた多くの鶴が献納されています。

「広島へ行けず、見る事が出来無いけれど、自分の想いを届けたい」という気持ちが、数千万分の折り鶴となって、飾られていました。私達は、像の中にある鐘を、数人に分かれて鳴らしました。鐘の音は、驚く程長く、美しく、大きく響きました。

そして、平和の灯についても教えていただきました。手首を合せて、手のひらを上に向けた形をしています。今は火がついていますが、世界から核兵器がなくなると、この火は消されるそうです。

平和記念資料館は、余りにも生々しいモノばかりありました。しかし戦時中は、もっと酷く、リアルだったことでしょう。そこにある悲惨な写真や資料の、数倍は悲惨な状況であったのだろうと思いました。外国人観光客もおり、かざられている写真を見て、涙を流す人も少なくはありませんでした。

脳みそはパンク寸前でしたが、貴重な体験とお話なので、ちゃんとノートに書き留めておきました。世界が本当に平和になる為に、必要だからだと感じたからです。

(福澤 優)

広島平和派遣【2日目】

令和元年7月30日(火)

私たちは、まずフェリーで被爆者が治療を求めて避難していた似島へ行き、臨海少年自然の家というところへ行きました。臨海学校に使われ、戦争について深く知ってもらうためにも、この場所は使われています。

特攻隊には飛行機で自ら敵へ突進する神風特攻隊のほか、船を使った特攻や、爆弾を体に巻いて突進することもあったそうです。戦争というものが、人の命の尊さを忘れさせてしまうと感じ怖くなりました。

周辺の遺構巡りをしました。山の中に七つの横穴を掘った横穴式防空壕などを見学しました。防空壕は、生きている人間が避難する場所というだけでなく、火葬場で処理できない死体を運び入れる場所にもなっていたそうです。異臭がひどく、次から次へと死体が運び込まれ、入口がふさがれるほどだったということです。

生きるために、麻酔なしでやけどの手術を受けた少女と、手術を執刀した医院長の話も伺いました。私は、心が締め付けられる思いがしました。戦争が終わっても、大勢の人の命を救えなかったことをとても悔やんでいましたが、その後少女に再会し、助けた命もあることを知り、心に刺さっていたトゲが1本とれた気がしたそうです。

また、症状が悪化すると噂が流れ、水を被爆者へ与えるなど当時は言われていたそうです。

そんな中、ある15歳の少年は、被爆者へ一瞬の安らぎを与えたいと思い水をあげました。すると「ありがとう」と言って被爆者は死んでいきました。一方で、少しでも長く生き延びて家族に会わせてあげたいと思い、水をあげなかった男性もいました。被爆者は、水を求めながら死んでいきました。どちらの行動が正しかったということはありませんが、改めて、戦争、原爆の恐ろしさを感じさせられました。

広島市立袋町小学校平和資料館は救護所として利用されていたほか、壁面には被爆者の消息を伝える伝言が数多く記されていたそうです。伝言を書いている時の被爆者や待っている家族の気持ちを考えると、心が苦しくなります。そして、被爆者はとても苦しみながら最後を迎えたのだと思うと、さらに悲しくなりました。

生き延びることができた人も今も心に傷を抱えています。実際に広島へ足を運び、当時の人たちの気持ち、傷を知ることができ、とても貴重な体験でした。

再び戦争を起こさないために、これからの私達に何ができるのか、自分自身に問いかけた2日目でした。

(涌井 董子)

広島平和派遣【3日目】

令和元年7月31日(水)

最初に行ったところは平和記念資料館です。そこでは被爆体験者である國分さんの講話を聞きました。國分さんの家族は原爆で妹と自分以外全員亡くなったそうです。家族が住んでいたところが火の海になり、助けるすべもなくただただその炎を見ているだけしかなかった國分さんの気持ちを考えると胸が張り裂けそうでした。講話を聞いた後は、1日目に見ることができなかった特別展示室の資料を見ました。

次に、平和記念公園へ行きました。

平和記念公園の中にある原爆の子の像という像に市民の方々に折っていただいた折り鶴を献納しました。

折り鶴の短冊には、この経験を通して、たくさんを感じ、考え、学んだことを、ピースメッセンジャーそれぞれの平和への想いを記載しました。

僕は折り鶴を献納したときにこの折り鶴に色々な人の思いが込められているのだなと思い、皆平和を祈る気持ちは一緒なのだと思いました。

最後に爆心地の島病院へ行きました。ここは、原爆ドームからとても近い所にあります。今も病院として使われています。

僕はこの派遣で様々な人の気持ちに触れ、感じ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

(福島 帆高)



(上)広島平和記念資料館見学 (下)國分さんとちょうふピースメッセンジャー2019

学んだこと・感じたこと

一番心に残った場所は、似島です。私は似島を知らませんでした。似島は原爆の影響は少なかったようですが、火傷や怪我をした人の看病に使われ多くは亡くなってしまい、丁寧に埋葬することができず、大量の遺体を埋めたそうです。私が訪れた似島は、青空で緑がきれいなところでした。しかし、そんなつらい現実があったことを知り言葉にできないくらい悲しくなりました。

原子爆弾という兵器により何も罪の無い人が一瞬で殺される恐ろしさが今まで以上にせまってきました。傷を負った人や残された家族などの人もずっと辛い思いをかかえて生きていることも知りました。

家では、広島への派遣を機に、原爆や戦争の特集のテレビや展示を見るようになりました。今の平和を保つためには、戦争や原爆の悲惨さについて多くの人に興味を持ってもらうことが大切だと思います。友達などの周りの人にこの派遣で学んだことを伝えていきたいです。

(松本 真紀)

私は、小学校の時、広島に原爆が投下された悲惨な過去を知りました。そして、どういう事があったのか知りたくて応募しました。

広島に行って、残り少ない被爆者の体験談を聞いたり、平和記念公園や資料館、似島に行ったりなどと貴重な体験をしました。そこには、目を覆いたくなるような痛々しい傷跡など丸焼けになった町の写真が残されていました。原爆の威力の強さを感じました。一瞬にして辺りを燃やし、たくさんの死者や怪我人を生み本当に地獄のような状況だったと思います。当時の人たちは、水を飲んだら死ぬと言われていたらしく、私たちが普段当たり前のように生活出来ていることはすごいことだと知りました。

今回の学習で、いろんな人の思いやその時の状況を知ることができました。私は、この体験を大切にしていきたいと思います。

(小笠原 直子)



派遣で特に印象深かったことがいくつかあります。まず、2日目の似島です。そこは、広島に原爆が投下された後、その負傷者の臨時野戦病院となったところです。そこには1万人もの人が集まったようですが、殆どの方が亡くなったそうです。罪のない人がそんなに亡くなり、本当に残酷だと思いました。そして、3日目の被爆体験者講話も印象に残りました。戦争によって家族を失う悲しみ、戦後の苦勞、それがひしひしと伝わってきました。

小学校でも戦争のことは学びました。しかし、それは、なぜ戦争が起こったかという内容で、「国」が戦い、「国」が負けたという、自分とは遠いことと感じていました。しかし、直接市民の方のお話を伺い、戦争は「国」や一部の人には関係のない出来事でも、自分に無関係なことでもないと感じました。

今の時代はある程度の平和が保証されているため、平和に対する有難さ、平和を維持しなくてはいけないという感情が薄れていると思います。

今回の派遣では知識が増えました。関連の本やテレビ番組などにも目が行くようになりました。しかし、調布市の代表として広島に行ったからには、自分の知識を増やすだけでなく、たくさんの人に平和の尊さを伝える責任があると思っています。

(福村 麻人)

平和祈念事業

調布市では、毎年様々な平和祈念事業を行っています。
ちょうふピースメッセンジャー2019も平和祈念事業へ参加しました。
ここでは、各種事業の紹介とその様子を紹介します。



北部公民館 折り鶴をつづる様子

折り鶴プロジェクト

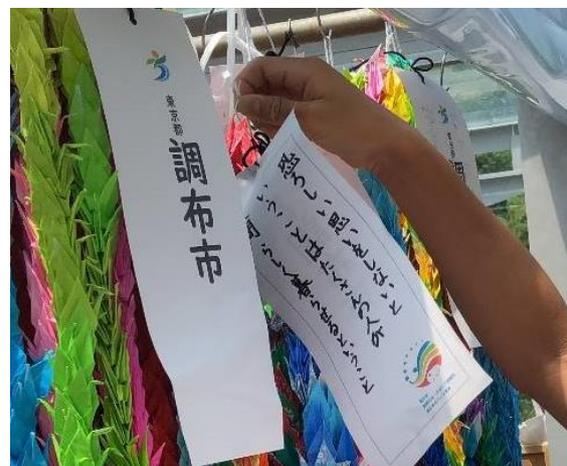
日程：平成31年4月19日（金）～
令和元年7月3日（水）
場所：市内各施設、市内中学校
（その他イベント会場においても実施）

「折り鶴」をきっかけに、市民の方に平和の尊さや命の大切さについて考えていただくプロジェクトです。

つづった折り鶴は、令和元年7月31日（水）に広島平和記念公園の原爆の子の像へピースメッセンジャーが献納しました。



原爆の子の像



折り鶴を献納する様子

調布サマーフェスティバル2019

日時:令和元年7月24日(水)

午後4時~7時30分

会場:東京オーヴァル京王閣

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催1年前にあたる令和元年7月24日(水)に行われた「調布サマーフェスティバル2019」の平和ブースにおいて、派遣前のピースメッセンジャーの想いを書いたパネルを展示し来場者に見ていただきました。



原爆展

日時:令和元年8月1日(木)~

8日(木)

午前10時~午後6時

会場:文化会館たづくり南ギャラリー

今年度の原爆展では、長崎市から借用した被爆資料やピースメッセンジャーが作成したメッセージボードの展示をし、来場者に見ていただきました。



黙とうの呼びかけ

8月6日(広島原爆の日),9日(長崎原爆の日),15日(終戦記念日),3月10日(東京都平和の日)に戦争で亡くなった方のご冥福と、世界の恒久平和の実現を祈念するために防災行政無線で黙とうを呼びかけています。令和元年度は、ピースメッセンジャーが黙とうの呼びかけをしました。

神田さち子ひとり芝居 「帰ってきたおばあさん」



日時:令和元年8月12日(月)

午後2時から

会場:文化会館たづくりくすのきホール

終戦後、中国に取り残された「中国残留婦人」の激動の人生を描いたひとり芝居の公演を観劇しました。

公演の前後にロビーにてメッセージボードの展示を行い、来場者に派遣で学んだことを発信しました。



くすのきホール前(上)展示の説明をする様子 (下)神田さち子さんとちようふピースメッセンジャー2019

劇団芸優座 「昇らぬ朝日のあるものを～幻のオリンピック」



日時:令和元年8月21日(水)

午後3時から

会場:グリーンホール大ホール

「昇らぬ朝日のあるものを～幻のオリンピック」の公演を観劇しました。

公演の前後にロビーにてメッセージボードの展示を行い、来場者に派遣で学んだことを発信しました。

調布スクラムフェスティバル vol.6

日時:令和元年11月1(金)~2日(土)
会場:調布駅前

平和祈念事業PRブースにおいて、メッセージボードの展示と折り鶴体験コーナーを設け、来場者に折り鶴を折っていただきました。

ピースメッセンジャーは、来場者に派遣で学んだことを発信したり、一緒に鶴を折りました。



戦争体験映像記録

日時:令和元年12月8日(日)
会場:文化会館たづくりスタジオ

戦争を体験した市民の方々のお話を映像で記録する「戦争体験映像記録」の撮影を行いました。

ピースメッセンジャーは戦争体験者2名にインタビューを行い、当時のお話や自分たちで考えた質問を聞いてみるなど、積極的に参加しました。



調布市広島平和派遣

メッセージボード巡回展「つながる」

ちょうふピースメッセンジャー2019の平和への想いが込められたメッセージボードを、市内イベントや市内各施設等で順次展示しました。

令和元年9月3日(火)～16日(月)

郷土博物館



令和元年12月19日(木)～27日(金) 文化会館たづくり11階みんなの広場



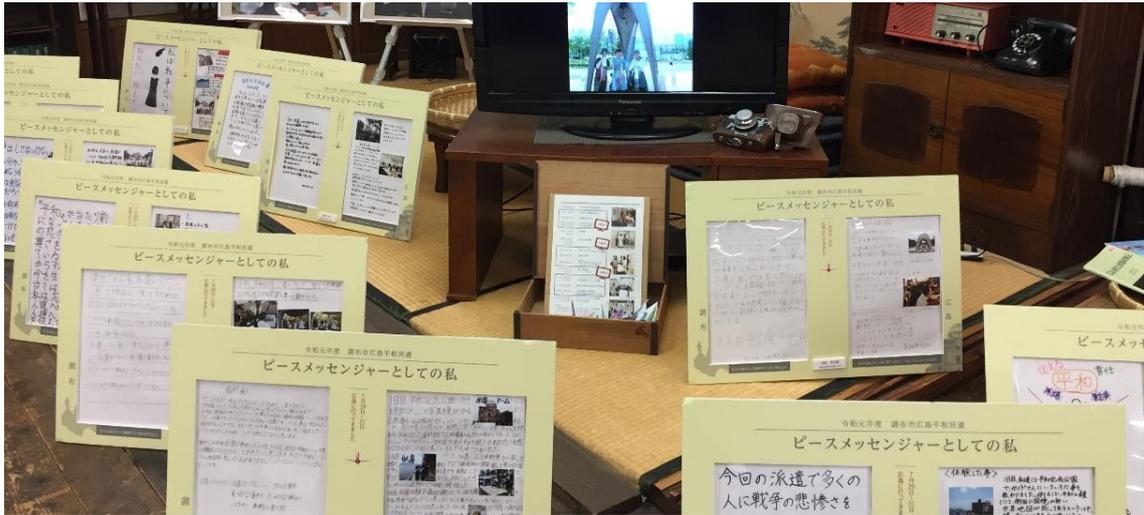
令和2年1月29日(水)～2月6日(木)

文化会館たづくり1階ロビー



令和2年2月8日(土)~19日(水)

市民活動支援センター



令和2年2月21(金)~3月1日(日)

北部公民館

